意見（獣医学系大学生の声）

社会人11年目の獣医師への転身

堀切竜也（岩手大学農学部獣医学課程6年）

編入学して以来，「獣医師として何がしたいのか」ではなく，「なぜ前職を辞めたのか」，「なぜ（前職よりも）獣医師なのか」とよく聞かれる．

これは私が外務公務員を11年間勤めたことが原因のようで，興味が湧いて当然の「なぜ」なのかもしれない．しかしながら，周りの若い学生について残念なのは，そういう「なぜ」だけでなく獣医界の外で社会人として生活を送ってきた者の職務や職責，政治・社会・経済情勢についての考え方などには殆ど興味を示さないように見受けられることだ．

よく言われる様に獣医師の職域は広いだけでなく，各専門分野がそれぞれの広がりと奥行きを持っている．それらが外の世界とどの様に関わっていて，どの様な社会的意義があり，何が期待されているのかといったことはきちんとわきまえておく必要がある．学生生活を終えて社会に出た途端，実態はどうあれプロフェッショナルであることが求められる．最近世間を騒がせている様々な問題をみていると，プロ意識の希薄化による不作為の蓄積によって生じた社会的・経済的・時間的に甚大な損失が露見し出しているのではないかと思えてしまうことがある．そのようなことが起こらないためにも，獣医師への期待を常に意識してプロフェッショナルであり続けるために努力することが重要だろう．

職に貴賤なしという．しかし，その職に就く者の考え方や行為次第でその職は個人にとっても社会にとっても貴にも賤にもなりうる．社会的に責任のある立場に立つことも多い獣医師はその行為のインパクトの大きさを十分に認識すべきだし，獣医学生にはそのための大前提として社会の様々なことに広く関心を寄せ，一社会人としての普通の感覚を持って欲しい．その意味でも，獣医社会の外で暮らしてきたオヤジ学生が働いていた世界に関心を持たないのはやはり残念なのである．

ここまで話して奇異に感じられるかもしれないが，私は，獣医師職に執着しすぎる必要はないとも考えている．別のフィールドで大いに活躍・貢献する獣医師が出てきても良いと思う．勿論，その時は獣医学以外の知識や資格，スキルが必要となろうが，獣医師であることは決してマイナスにならないし，むしろ大いに役立つことだと考えている．

ここで最初の質問に立ち返ってみる．私が「獣医師として何をしたいのか」．

今のところ「事務・営業屋」になりそうである．地球規模の生態系にとって重要な世界有数の熱帯雨林に暮らす希少野生動物を保護する活動．個体群・生息地の保護と持続可能な発展と貧困問題．現地にも暫くは滞在して現場の活動にも携わるだろうが，メインは日本．現地で現地の人が中心となって実施しているプロジェクトに助言したり支援したりするために事業計画を立案し，実施していく．おそらくそこで「獣医師」であること自体は付加価値に過ぎないかもしれない．ただ，その知識と技術は大いに活用できると確信している．そして，獣医師だからこそ，人同士のつながりを大切にできる魅力的な人間として社会に貢献したいと今更ながらに思っている．

略　歴

1971年　大阪府で生まれる
1993年　外務省入省（外務専門職）．アラビア語専門となる．（本省勤務およびエジプト勤務の間，広報文化，中東諸国と二国間関係，邦人保護，安全保障問題などに携わる）
1994年　立命館大学法学部卒
2004年　外務省辞職，岩手大学農学部獣医学科に編入学

† 連絡責任者（担当教官）：佐藤れえ子（岩手大学農学部附属動物病院）
〒020-8550　盛岡市上田市3-18-8　☎・FAX 019-621-6227　E-mail : reekos@iwate-u.ac.jp